

HYEC.ORG における WinSCP の使用方法

著:HYEC.ORG

1. 始めに

このドキュメントは WinSCP の使用方法について簡単にまとめたものです。このドキュメントを読み始める前にキーペアを作成しておいてください。キーペアの作成方法については、「HYEC.ORG におけるキーペアの作成方法」に手順をまとめてありますので、よかったら参照してください。また、すでに HYEC.ORG サーバへ接続できることが前提です。もし、WinSCP の設定方法が分からなければ、「HYEC.ORG における WinSCP の設定方法」に手順をまとめてありますので、こちらの方も参考にしてください。

2. サーバへローカルのファイルをコピーする

ローカルのファイルをサーバにコピーするのは簡単です。下記の画面を見てください。

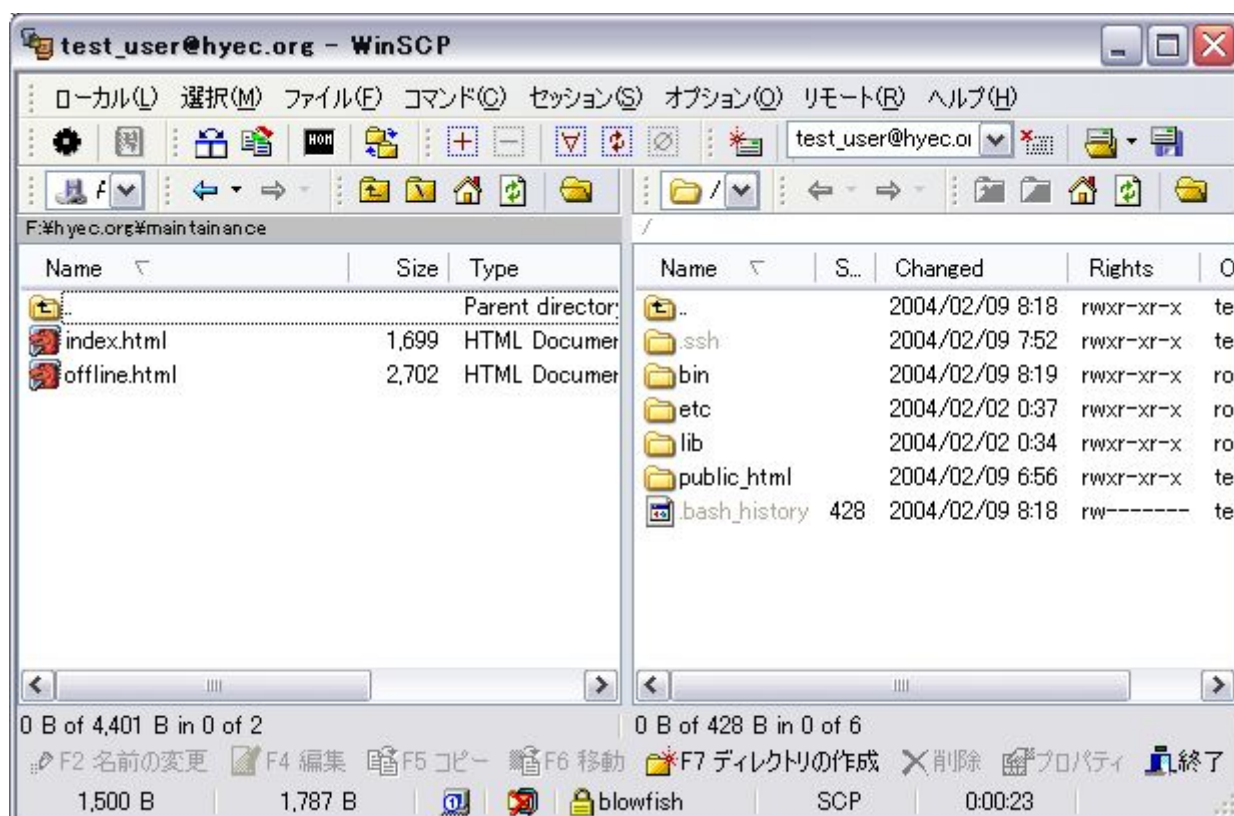


図1: 起動直後の状態 (コピー前)

この画面の左側がローカル側、右側がサーバ側となります。ローカル側にある「index.html」をサーバにコピーしたいとします。その場合は、ローカル側にある「index.html」ファイルを右側までドラッグします。このとき、ディレクトリの上で左ボタンをはなすと、そのディレクトリの中にファイルが格納されます。

別な方法として、ローカル側のファイルを選択した状態で、ファンクションキーの5 (F5) を押下するか、画面下部の「F5 コピー」という部分をクリックします。すると、コピー先を入力するダイアログが表示されますので、そこに移動先のディレクトリを入力します。

どちらの方法であっても、下記の画面のようにサーバ側へファイルをコピーすることができます。



図2:コピー先の指定ダイアログ

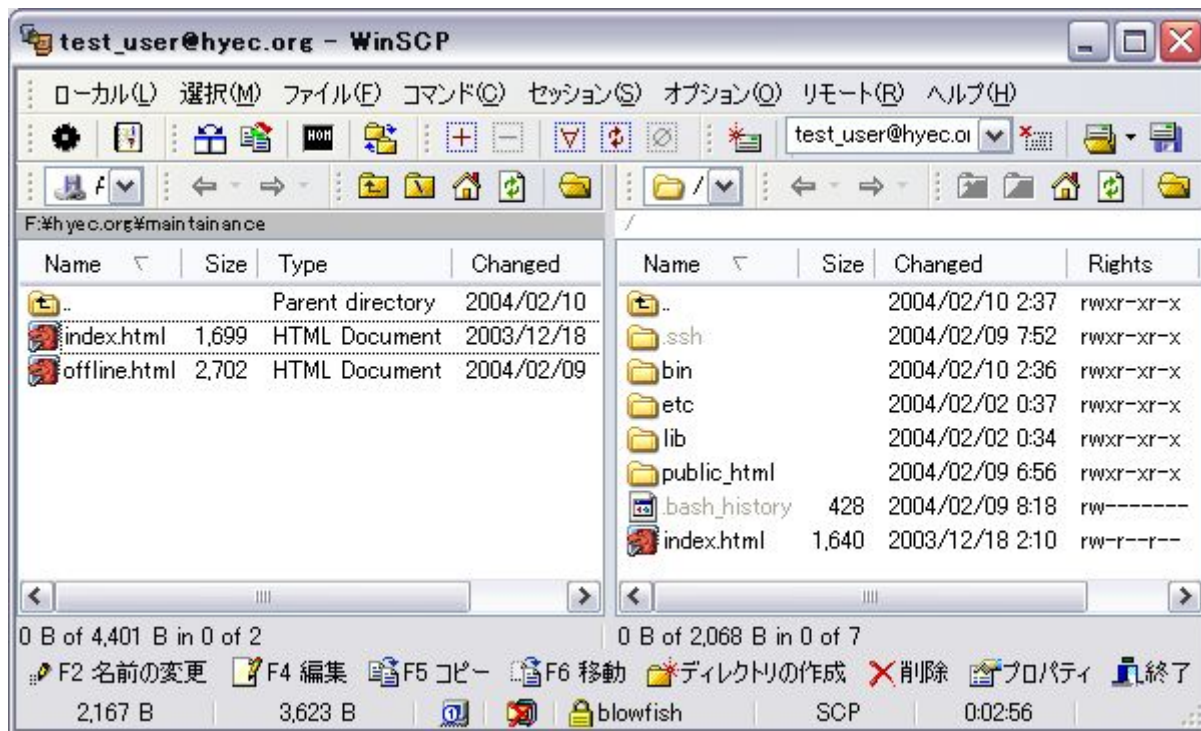


図3:コピー後 (index.html がコピーされている)

なお、すでにサーバ上にファイルがある状態でコピーを行った場合、確認のダイアログが表示されます。ここで、「はい」をクリックすれば上書きされます。「いいえ」をクリックすれば上書きされません。「中止」をクリックすれば、処理が中止されます。複数ファイルを一度にコピーしているときに「全ていいえ」をクリックすると、全てのファイルが上書きされません。逆に「全てはい」をクリックすると、全てのファイルが無条件で上書きされます。この「全て～」は複数ファイルをコピーしていない場合、「はい」又は「いいえ」と同じ動作をします。

また、「次回を表示しない」のチェックボックスにチェックを付けておくと、次回以降はこの確認のダイアログが表示されず、上書きされるようです。

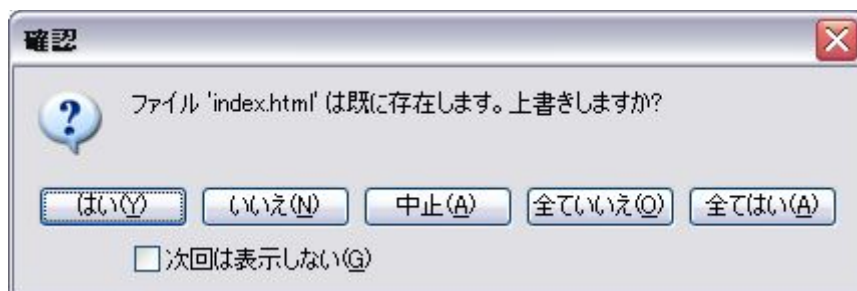


図4:確認のダイアログ

3. ローカルへサーバのファイルをコピーする

サーバのファイルをローカルへコピーする時も、ドラッグ & ドロップで簡単に行うことができます。また、ローカルのファイルをサーバへコピーする時と同様に、ファンクションキーの5 (F5) や画面下部の「F5 コピー」も使用できます。

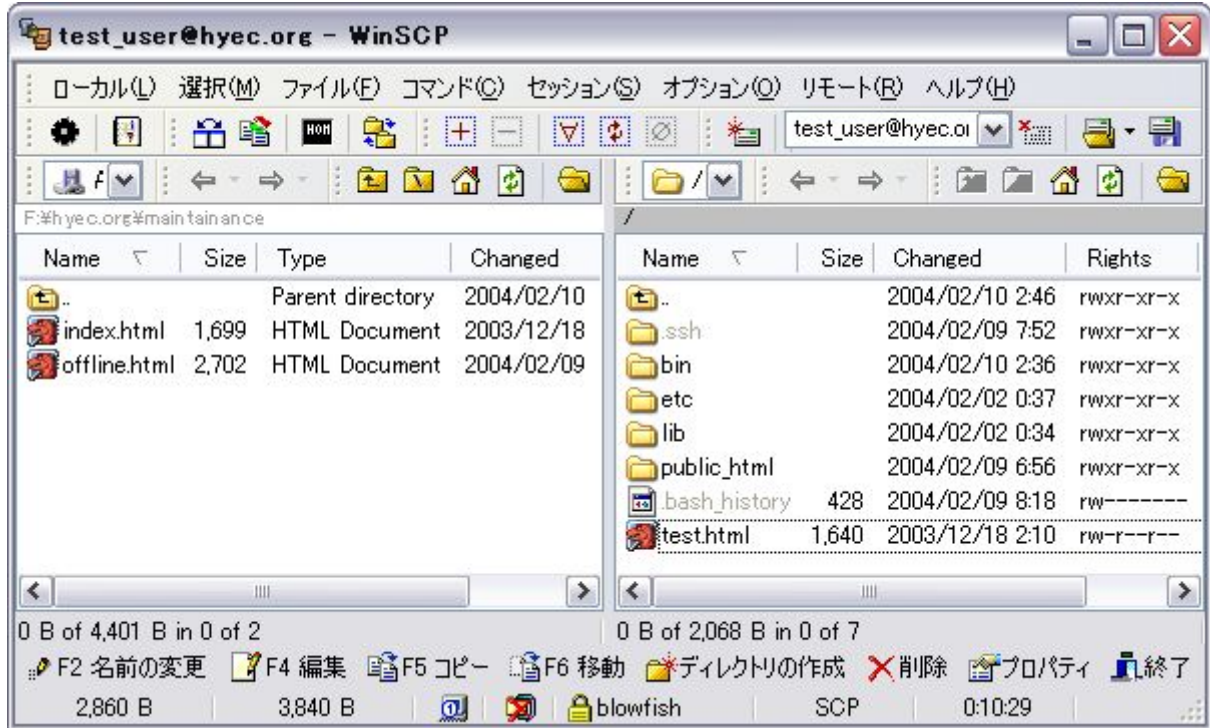


図5:コピー前(サーバ上の「test.html」をコピーしようとしている)

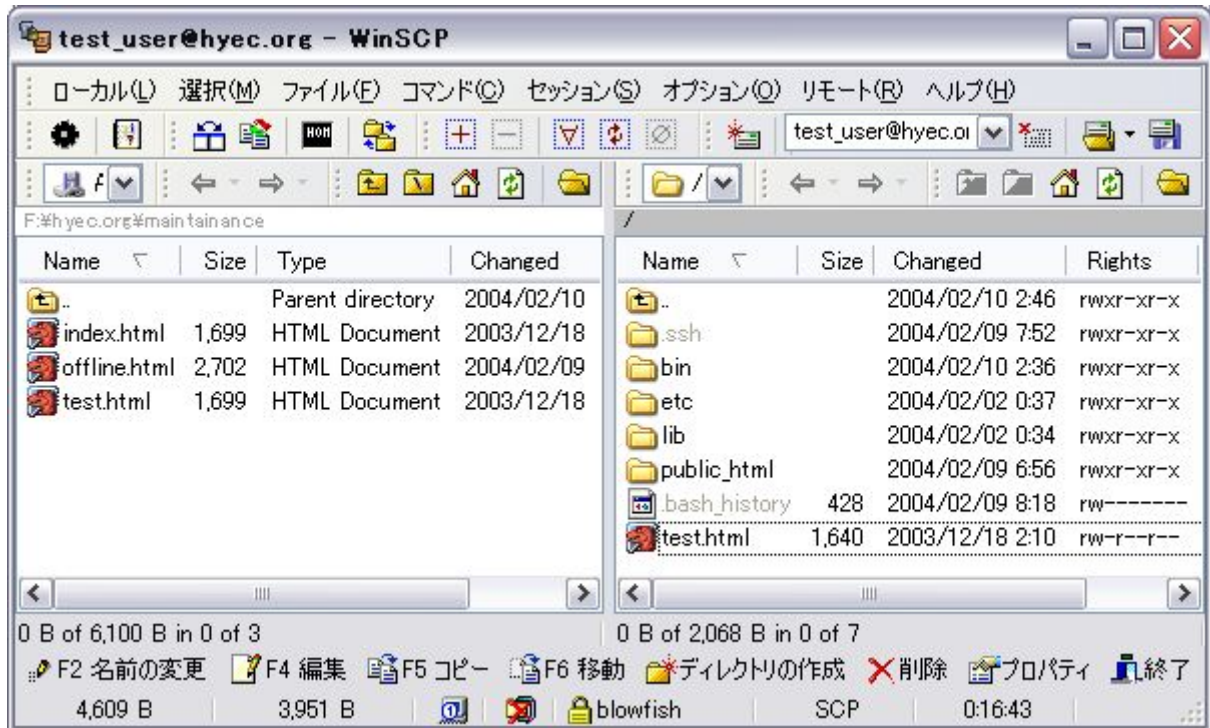


図6:コピー後(「test.html」がコピーされている)

4. サーバ上のファイルを変更する

WinSCPを用いて、サーバ上のファイルを変更することができます。その方法はとても簡単で、サーバ側(右側)のファイルの上で右クリックするだけです。そうすると下記のようなメニューが表示されます。



図7:サーバ上のファイルの上で右クリックした際に表示されるメニュー

上記メニューのうち、「コピー」についてはすでに説明しました。「開く」、「編集」、「カスタムコマンド」については使用頻度が低いと思われるため、説明を割愛します。

それではひとつひとつ見てみましょう。はじめは「移動」です。基本的に「コピー」と代わりはありませんが、「コピー」がサーバ上にファイルが残るのに対し、「移動」はサーバ上にファイルが残りません。上記を見てもらえれば分かるとおり、ファンクションキーの6(F6)や画面下部の「F6 移動」をクリックしても同様の操作を行うことができます。

なお、下記の例ではサーバ側からローカル側への操作を紹介していますが、逆も可能です。つまり、ローカル側からサーバ側へ「移動」することもできます。

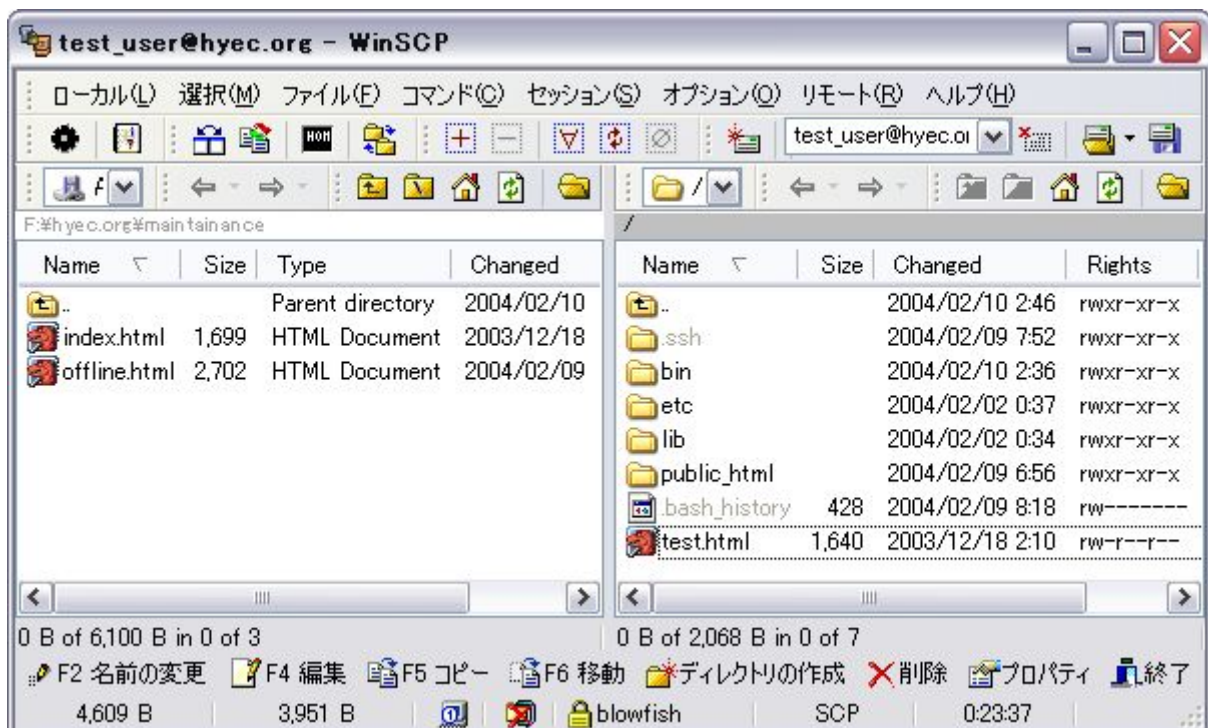


図8:移動前(サーバ上に「test.html」が存在していることに注意)

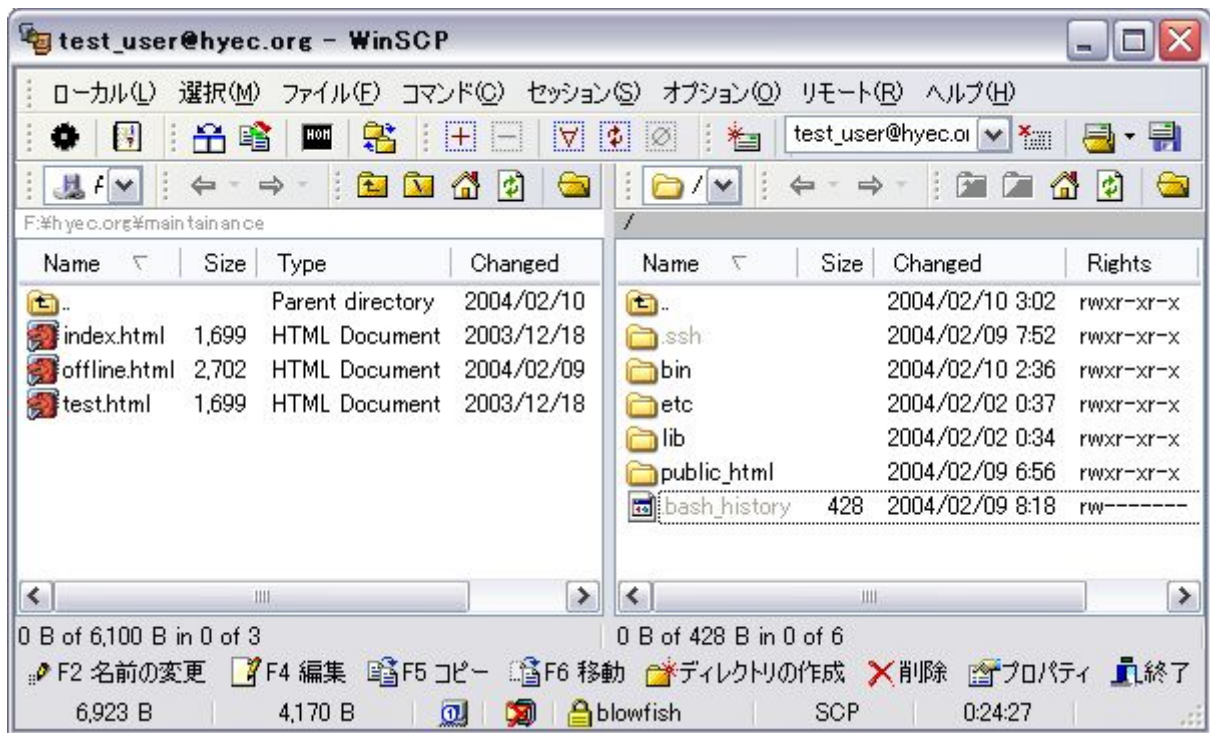


図9: 移動後(サーバ上に「test.html」が存在しないことに注意)

続いて「削除」について説明します。「削除」も「コピー」や「移動」と同様に、ファンクションキーの8(F8)や画面下部の「削除」をクリックしても同様の操作を行うことができます。

ファイルを選択した状態で「削除」を行うと、確認のダイアログが表示されます。

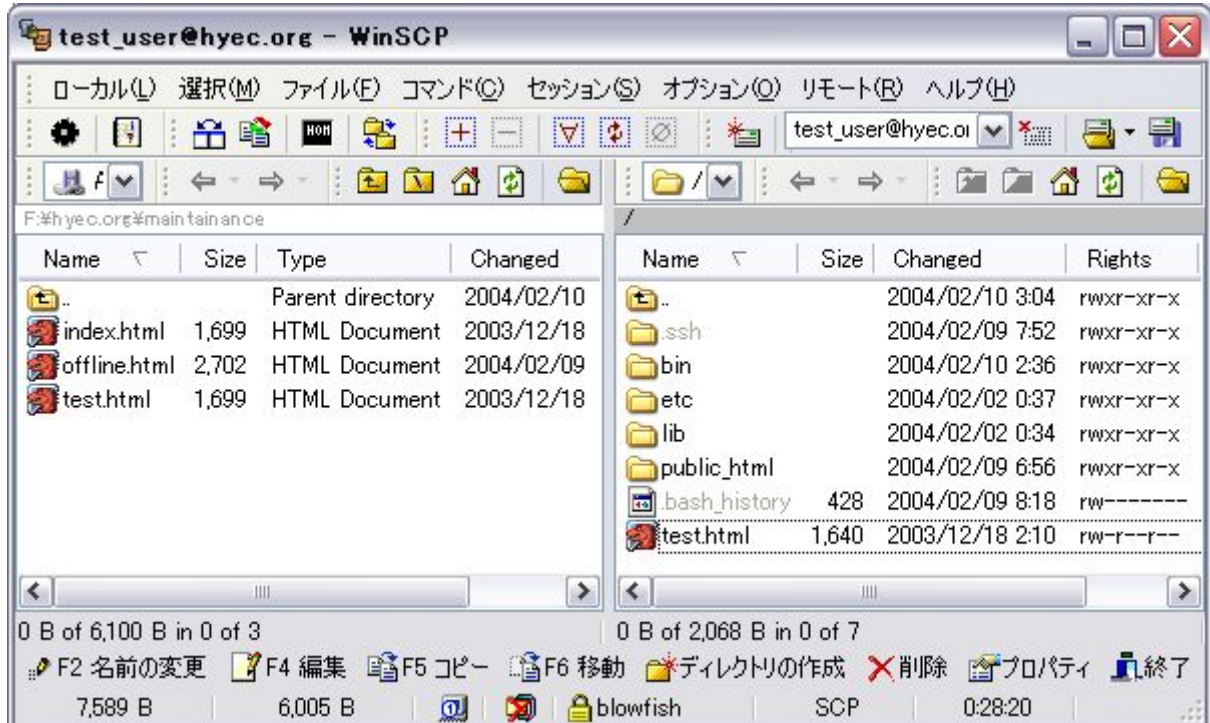


図10: 削除前(「test.html」を削除しようとしている)



図11: 確認のダイアログ

上記のダイアログで「OK」をクリックするとファイルが削除されます。「キャンセル」をクリックするとファイルの削除は行われません。「次回は表示しない」にチェックを付けておくと、次回以降この確認のダイアログが表示されなくなります。

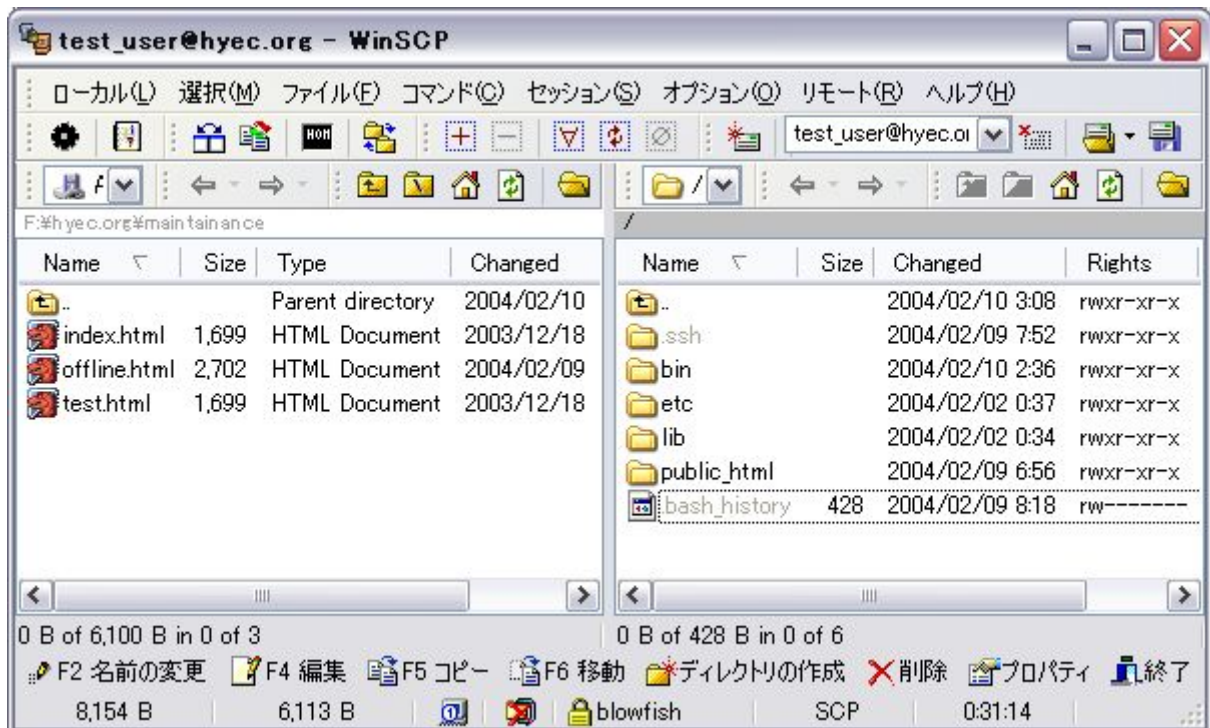


図12: 削除後(「test.html」が削除されていることに注意)

なお、一度削除したファイルは二度と復活できませんので十分注意してください。

続いて、「名前の変更」について説明します。「名前の変更」をクリックするとサーバ上のファイル名やフォルダ名を変更することができます。これもファンクションキーの2(F2)や画面下部の「F2 名前の変更」を選択することで、同様の操作を行えます。

この操作を行うと、ファイル名が反転し、編集できるようになります。名前を変更し終わったら、リターンキー(エンターキー)を押下すると確定されます。なお、すでに存在するファイル名を指定するとエラーになります。

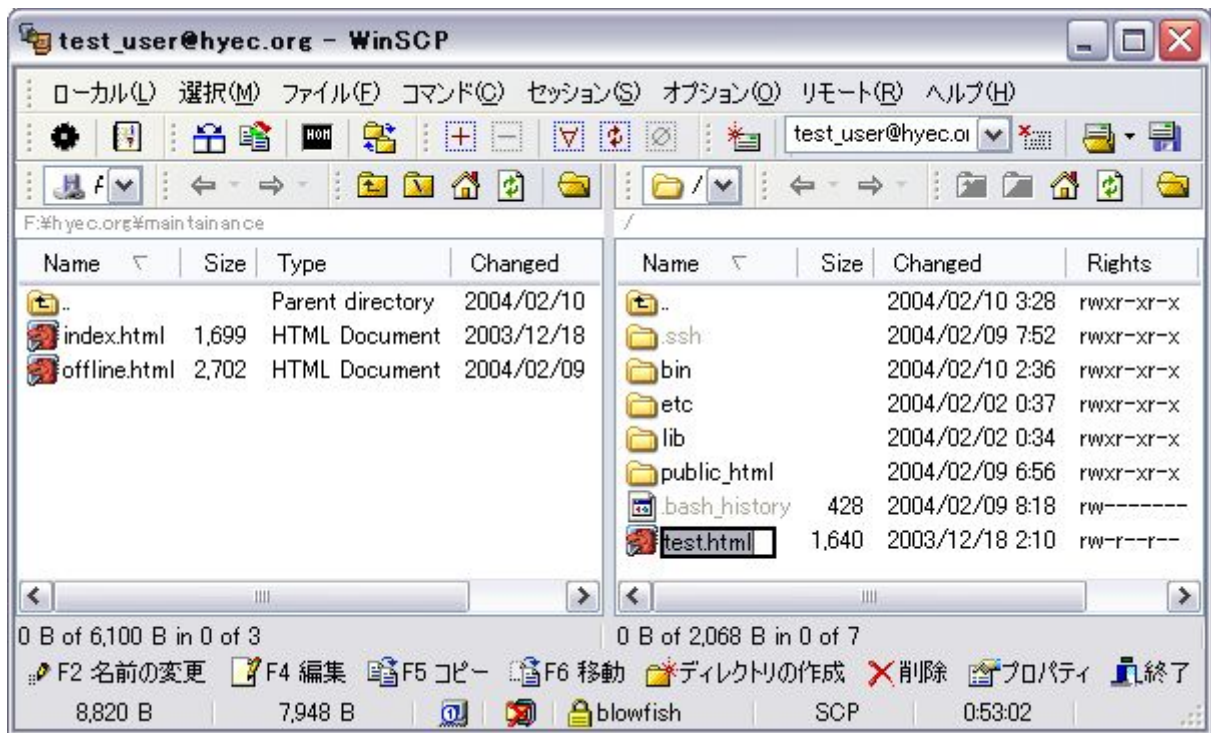


図13:ファイル名変更前(ファイル名が反転し、編集できる状態になっている)

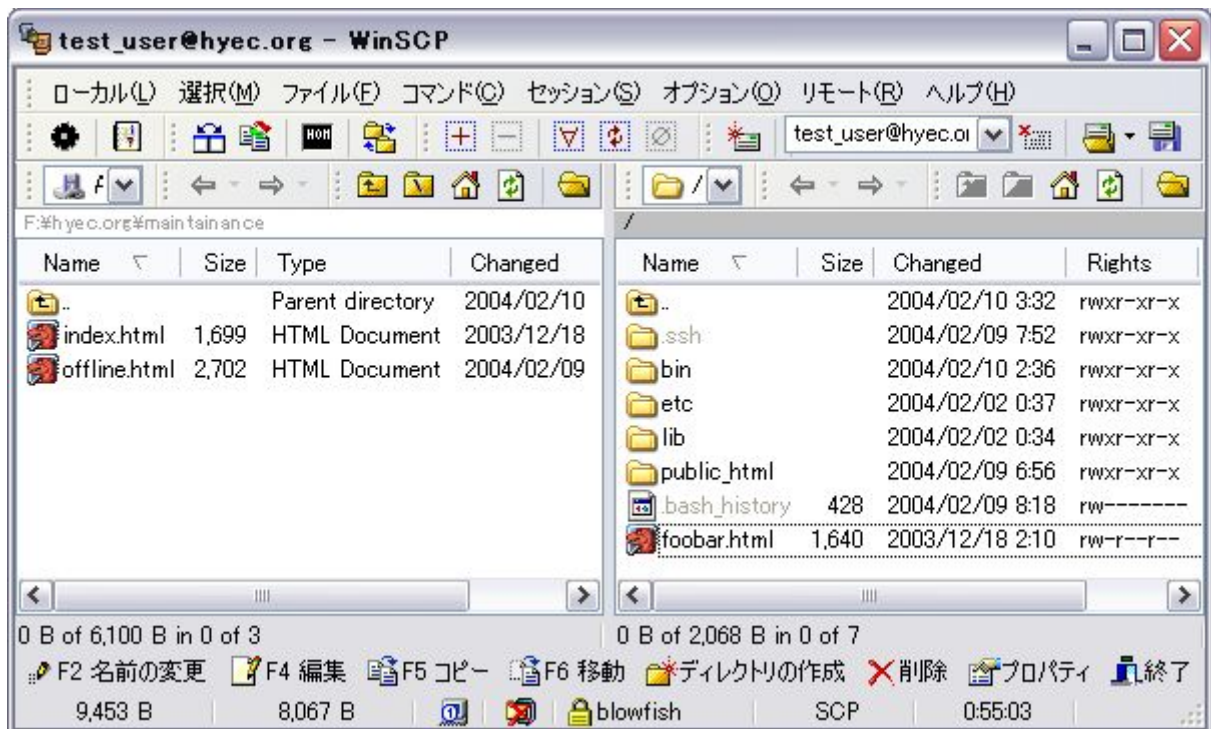


図14:ファイル名変更後(「test.html」だったファイルが「foobar.html」になっていることに注意)

続いて「プロパティ」について説明します。これもファンクションキーの9(F9)や画面下部の「プロパティ」を選択することで実行できます。

「プロパティ」をクリックすると、下記のようなダイアログが表示されます。



図15:「プロパティ」のダイアログ

このダイアログには、ファイル名とファイルが格納されている場所、ファイルのサイズが表示されています。その下にグループと所有者が表示されています。さらにその下にはパーミッションが表示されています。

パーミッションはチェックボックスを使用する方法と直接数字を指定する方法の両方で行うことができます。ちなみに「R」が読み込み、「W」が書き込み、「X」が実行の権限を表します。FTPクライアントに慣れた方ならすぐに理解できるのではないのでしょうか。

5. ディレクトリを作成する

画面下部に「ディレクトリを作成」というものが存在しているのにお気づきでしょうか？これをクリックすると文字通りディレクトリを作成することができます。これも他と同じようにファンクションキーの7(F7)を押下することでも作成できます。

「ディレクトリを作成」をクリックすると、下記のようなダイアログが表示され、作成するディレクトリ名を入力することができます。



図16:新規に作成するディレクトリ名の入力画面

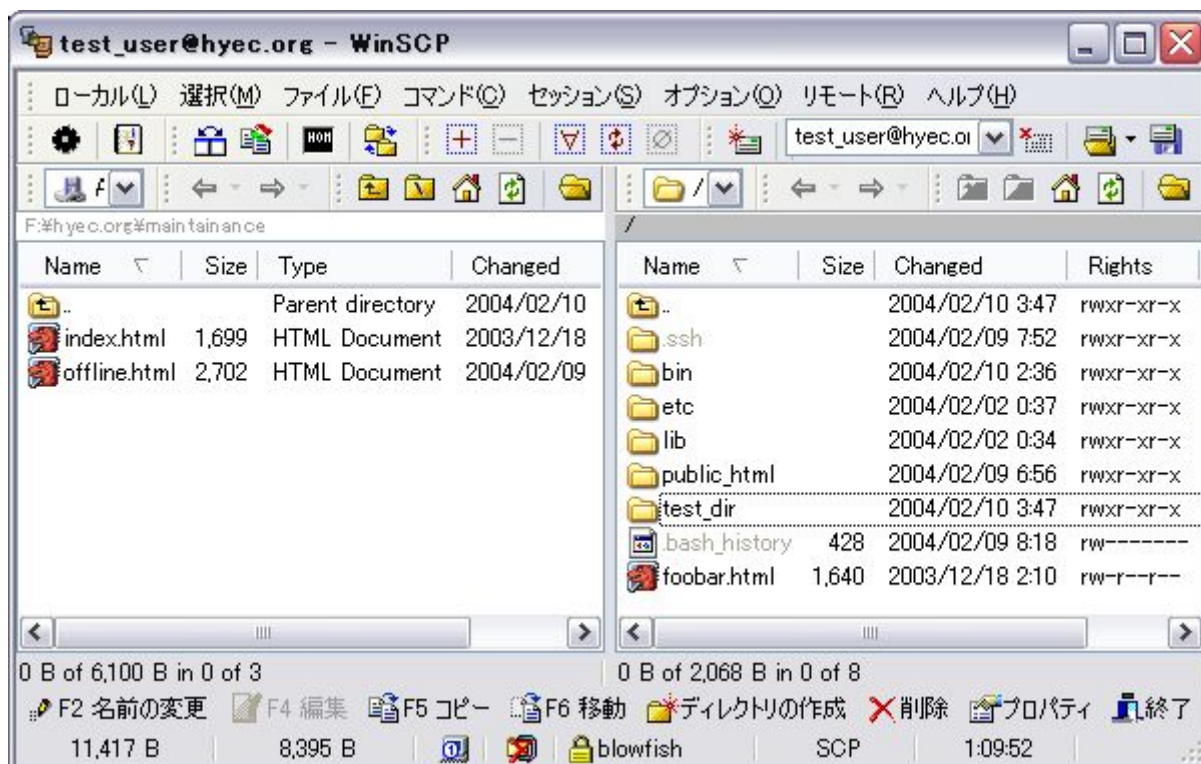







図17:ディレクトリ作成後(ダイアログボックスに入力した名前で作成されたことに注意)

6. アイコンの意味

画面上部には様々なアイコンがあります。これらのアイコンの中から一部をご紹介します。なお、これらのアイコンの上にマウスカーソルを合わせたまま放置しておくと、ちょっとした説明が表示されますので参考にしてください。ちなみに、これらのアイコンが使用できないときはグレーになり選択できなくなります。これらの具体的な説明は割愛しますが、ほとんどの場合使ってみれば理解できると思います。

アイコン	機能
	ひとつ上のディレクトリに移動する
	ルートディレクトリ(一番上の階層のディレクトリ)に移動する
	ホームディレクトリ(サーバの場合は初回ログイン時に最初に表示されたディレクトリ)に移動する。
	再表示する。
	現在のディレクトリの場所を保存する/場所を保存したディレクトリに移動する。

7. 最後に

どうですか？ 普段使い慣れたFTPクライアントとさほど変わらないと思いませんか？ WinSCPにはここで紹介しなかった機能ももっとありますが、それについては実際に使ってみて試してみてください。